

令和4年度学術発展科目群数理・データサイエンス
科目に係る自己点検・評価書

令和5年4月

国立大学法人千葉大学
情報戦略機構データサイエンス部門

1. 自己点検・評価

項目	評価基準	点検結果/評価結果	評価レベル
授業改善に向けての取組状況	○学生の学習成果を確認しているか。	<p>【点検結果】 個々の学生の学習成果は、各科目において小テスト、試験・レポート等で確認している。その全体状況として、各科目の単位修得状況・成績分布を全学教育センターで作成し、全学教育センター普遍教育運営部会及び学部教育委員会、科目運営の数理・データサイエンス科目専門教員集団において確認している。</p> <p>【評価結果】 上記点検結果のとおり、学習成果を確認しており、基準を満たしていると言える。</p>	B
	○プログラム（科目群）の教育目標を定めているか。	<p>【点検結果】 数理・データサイエンス科目群の教育目標は、「高度情報社会で生きていくために必要であり、あらゆる分野で求められている情報処理・データ分析能力と情報倫理を習得すること」と定めている。</p> <p>科目ごとの教育目標については、必修科目である数理・データサイエンス科目（基礎）（科目名「情報リテラシー」）は、「情報技術を活用するために必要なコンピュータやインターネットなどの基本的な知識を修得するとともに、情報技術と社会との関わりや情報セキュリティ、情報倫理の課題についても理解すること」としている。また、「数理・データサイエンス科目（展開）」は、社会の広い分野とデータサイエンスの関わりについて学ぶ科目群として位置づけており、統計やプログラミングの初学者向け科目の「データサイエンスA～D」の他に機械学習や人工知能（AI）の基礎を学ぶ科目を配当している。個々の科目は、基礎・展開の位置づけに沿った、具体的な教育目標をシラバスに明記している。</p>	B

		<p>【評価結果】 科目群、各科目のそれぞれの単位で教育目標を定めており、基準を満たしていると言える。</p>	
	○プログラム（科目群）の教育目標を周知しているか。	<p>【点検結果】 学生への履修案内冊子『Guidance』の6頁に数理・データサイエンス科目群等の教育目標を掲載しており、年度初めの普遍教育ガイダンスや各学部の履修ガイダンスにおいても説明を行っている。 各授業科目については、オンラインシラバスの授業概要情報に目標/Goalsとして明記している。</p> <p>【評価結果】 履修案内冊子、履修ガイダンス、各授業科目のシラバスにより、それぞれの教育目標を周知しており、基準を満たしていると言える。</p>	B
	○教育目標に沿った授業が行われているか。	<p>【点検結果】 授業内容については、学部の枠を超えた専門領域の教員集団である数理・データサイエンス科目専門教員集団が、シラバスと授業計画、フィードバック方法等を点検している。 また、毎年3月に授業担当者への説明会（集団会議）等を行い、教育目標に沿った授業内容や授業運営についてのFDと調整を行っている。</p> <p>【評価結果】 数理・データサイエンス科目専門教員集団が、教育目標に沿った授業内容、授業運営について調整・確認を行っており、基準を満たしていると言える。</p>	B
	○学生による授業への意見などを収集する機会などを設けているか。	<p>【点検結果】 大学として、科目ごとの授業評価アンケートを実施しており、数理・データサイエンス科目群についても、授業評価アンケートによる学生の意見収集を行っている。また、普遍教育全体を運営する全学教育センターでは、年1回、学生との懇談会（各学部から総計50名程度の学生が参加）を行っており、同</p>	B

		<p>懇談会において、授業の状況等について意見を聴取している。</p> <p>【評価結果】 授業評価アンケートの他、学生との懇談会により、学生の意見を聴取しており、基準を満たしていると言える。</p>	
	<p>○教育成果について検証を行い、その結果を教育課程や教育内容・方法の改善に結びつけているか。</p>	<p>【点検結果】 普遍教育の全ての授業科目の成績分布（履修者数、単位修得状況、成績分布、GPCA）を、全学教育センター普遍教育運営部会及び学部教育委員会に提出し、全学的に確認している。数理・データサイエンス科目もその中に含まれている。この教育成果の確認は、教育課程や授業計画の改善につながっている。また、この成績分布資料は、授業計画を担当する教員集団にも伝え、GPCA が所定の基準値から外れている授業については、必要に応じて教員及び教員集団に対してその状況の確認を行うこと等により、授業内容・方法の改善につながっている。</p> <p>【評価結果】 授業科目の成績分布について、関係の会議及び科目を担当する教員集団において確認し、また、成績分布が所定の基準から外れている科目については、その状況を確認し、教育内容・方法の改善につながっており、基準を満たしていると言える。</p>	B
自己点検・評価の実施状況	<p>○自己点検・評価を実施しているか。</p>	<p>【点検結果】 令和5年3月～4月に、データサイエンス教育実施本部において、令和4年度の学術発展科目群数理・データサイエンス科目に係る自己点検・評価を実施した。 また、取組の実施状況については、「次世代型人材育成計画アクションプラン」の中でも自己点検・評価を実施している。</p>	B

		<p>【評価結果】 データサイエンス教育実施本部が主体となり、自己点検・評価を行っており、適切に実施していると言える。</p>	
	○外部者（当該大学の教職員以外の者）による検証が実施されているか。	<p>【点検結果】 データサイエンス教育の充実は、第3期中期計画で「教育改革の取組事項」としてアクションプランを策定しており、令和4年度に国際未来教育基幹が実施した外部有識者を含む「基幹キャビネット」による外部評価を受けた。</p> <p>【評価結果】 国際未来教育基幹の外部委員による評価と意見交換を行っており、適切に実施されていると言える。</p>	B
	○評価結果を学内及び社会に対して広く公開しているか。	<p>【点検結果】 令和4年度の学術発展科目群数理・データサイエンス科目に係る自己点検及び評価の結果について、データサイエンス教育実施本部ウェブサイトへの公開を予定している。</p> <p>【評価結果】 自己点検・評価を終え、データサイエンス教育実施本部ウェブサイトにて公開を予定しており、基準を達成できる見込みである。</p>	B
卒業（修了）生や就職先等の関係者からの意見聴取等の実施状況	○卒業（修了）生や、就職先等の関係者から意見聴取を行い、社会からのニーズ等を把握しているか。	<p>【点検結果】 令和4年度に国際未来教育基幹が実施した外部評価において、卒業後のキャリアへの展望や総合大学としての特色を生かした数理・データサイエンス教育の展開、修得が求められるスキルなどについて、外部委員より意見をいただいた。</p> <p>今後は、授業ごとのアンケートに加え、学術発展科目群数理・データサイエンス科目を受講した学生が卒業していくため、卒業時及び卒業後のアンケートにより意見聴取を行うこととしている。</p>	B

		<p>【評価結果】</p> <p>外部委員からの評価、外部委員との意見交換、履修者への授業評価アンケートを既に実施しており、加えて、該当学生の卒業時にアンケートを予定していることから、基準を達成していると言える。</p>	
--	--	---	--

学術発展科目群数理・データサイエンス科目に係る点検・評価実施要領

学術発展科目群数理・データサイエンス科目に係る点検・評価は、この実施要領により行うものとする。

1 評価項目

「評価項目」については、データサイエンス教育実施本部において定める。

2 評価基準

「評価基準」については、データサイエンス教育実施本部において定める。

3 点検の実施

データサイエンス教育実施本部及び全学教育センターが、点検を行う。

4 評価の方法

データサイエンス教育実施本部において評価基準に従い、評価を行い、次の「評価レベル」に基づいて三段階の判定を行う。

【評価レベル】

- A 評価基準に示している内容について、『優れた点』があり、十分に行われている。
- B 評価基準に示している内容について、概ね行われており、相応である。
- C 評価基準に示している内容について、改善の必要がある。

5 本要領の読み替え

データサイエンス教育実施本部の改組に伴い、令和5年4月1日以降、この要領で「データサイエンス教育実施本部」とあるのは、「情報戦略機構データサイエンス部門」と読み替えるものとする。